

女性たちのネットワーク形成 から考える貧困と学校

～調査とおにわの事例から～

＠長野県教育研究集会

妊産婦等生活援助事業 おにわ 代表理事

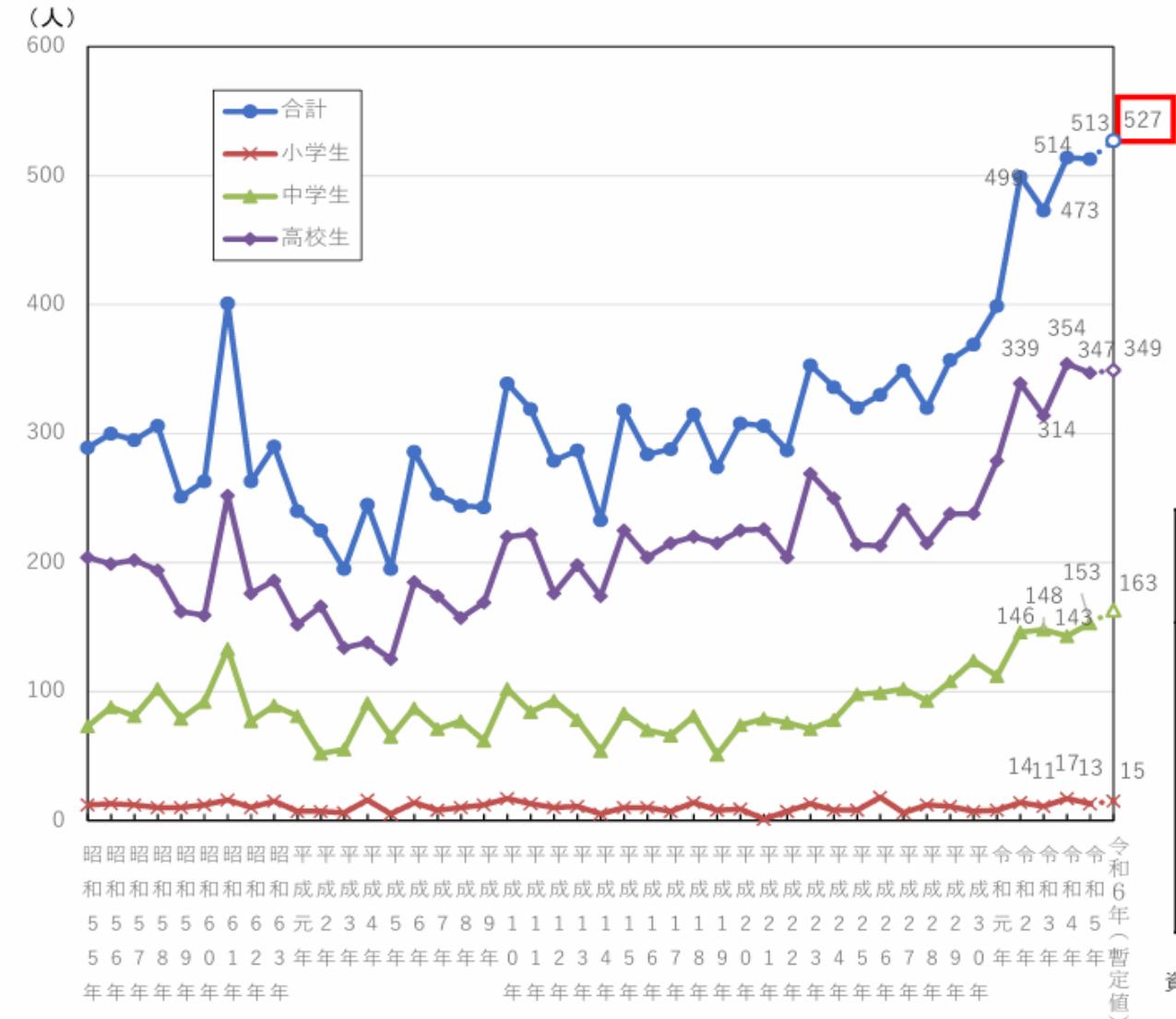
琉球大学 教育学研究科 上間陽子

自死する子どもの増加

小中高生の自殺者数は、近年増加傾向が続き、令和6年（暫定値）では527人と、統計のある1980（昭和55）年以降で最多となっている。

→「子どもの幸せ」をどう育むか

厚生労働省・警察庁「令和5年中における自殺の状況」



沖縄はどういう場所か？

沖縄県の貧困－子どもの貧困対策計画（平成28年3月）より

図表1-10 子どもの貧困率の推計

	サンプルA	サンプルB	国(参考)※3
自治体数	8自治体	35自治体	
世帯数	41万2千805世帯	55万5千544世帯	
子どもの数	20万3千591人	27万7千110人	
H22国勢調査による沖縄県全体の17歳以下の子どもの数に対する割合	約68%	約93%	
子どもの相対的貧困率	29.9%	推計不可	16.3%
18歳－64歳の大人が1人の世帯の世帯員の貧困率※1	58.9%	推計不可	54.6%
再分配前の子どもの貧困率	32.4%	33.9%	
貧困線	126万円※2		122万円

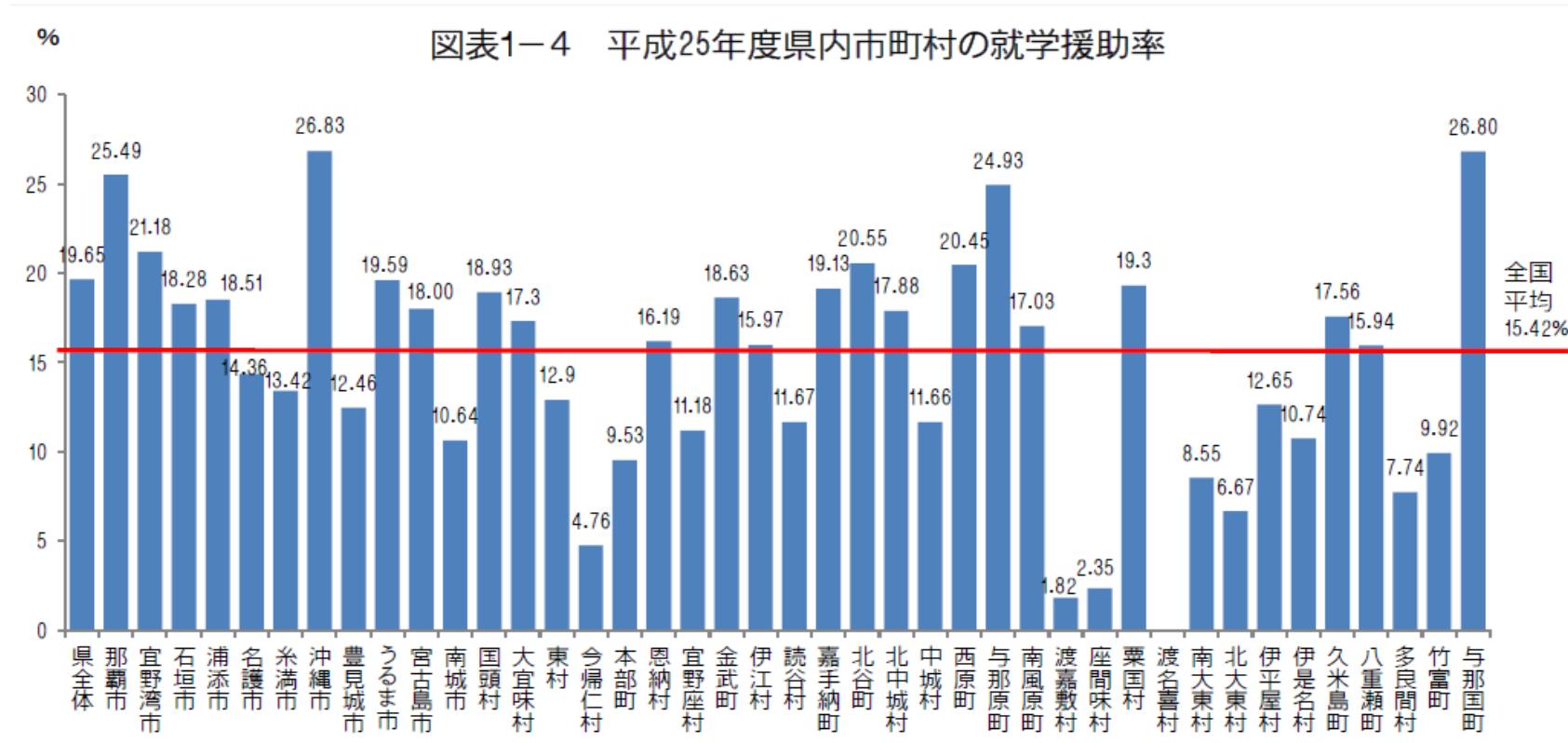
出所:沖縄県の子どもの貧困率:「沖縄県子どもの貧困率調査」(沖縄県)

※1 0歳－17歳以下の子どもと18歳－64歳以下の大人1人によって構成される世帯

※2 厚生労働省「平成25年国民生活基礎調査」による貧困線を物価調整した値

※3 厚生労働省「国民生活基礎調査」

就学援助率のばらつき—*自治体・教師の取り組みの差異が反映していたと思われる



出所:「平成25年度就学援助受給者数」(沖縄県教育庁)

令和7年度全国学力・学習状況調査の報告書・集計結果について

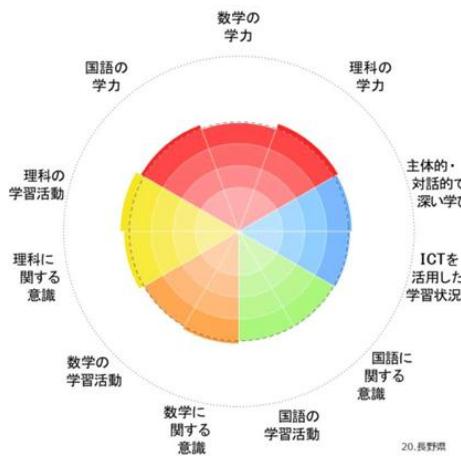
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/1419141_00007.htm

令和7年度 全国学力・学習状況調査 都道府県・指定都市別ノート

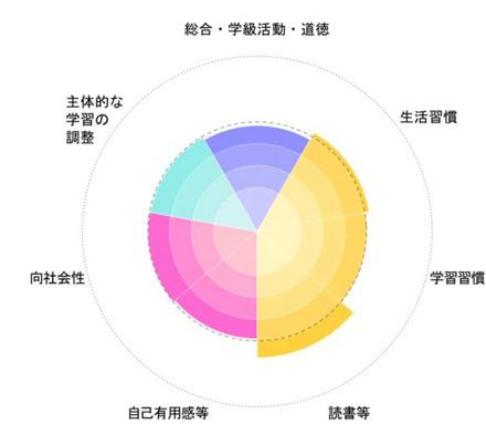
20.長野県

＜結果チャート＞ ※点線は全国平均を示している。

【教科を中心とした学力・学習状況】(全国基準)



【その他の学力・学習状況】(全国基準)

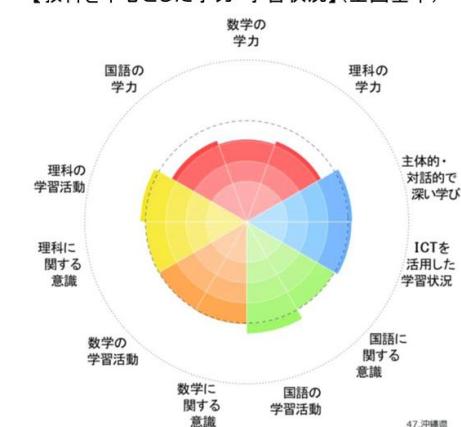


令和7年度 全国学力・学習状況調査 都道府県・指定都市別ノート

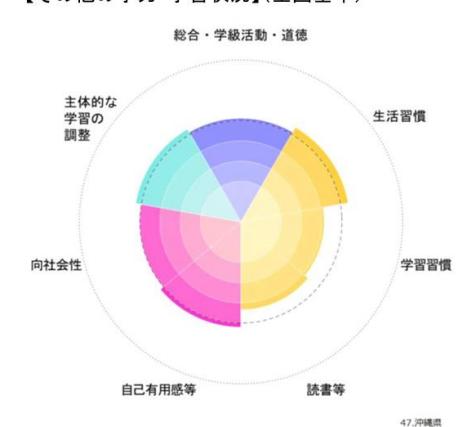
47.沖縄県

＜結果チャート＞ ※点線は全国平均を示している。

【教科を中心とした学力・学習状況】(全国基準)



【その他の学力・学習状況】(全国基準)



不登校の小中学生、最多35万人 12年連続増、26人に1人

© 共同通信

文部科学省は29日、2024年度の問題行動・不登校調査の結果を公表した。国公私立の小中学校で年間30日以上欠席した不登校の児童生徒は12年連続で増え、全体の3.9%（26人に1人）に当たる35万3970人と過去最多を更新。小中高校などが認知したいじめは76万9022件、うち身体的被害や長期欠席が生じた「重大事態」は1405件で、いずれも最多だった。

文科省は、無理に通学する必要はないといった保護者らの意識変化が不登校増加の要因とみている。いじめは積極的な認知が進んだ結果とするが、重大事態の増加は「憂慮すべき事態」とした。

不登校の小学生は5.6%増の13万7704人、中学生は0.1%増の21万6266人で、増加率は前年より大幅に減った。小学生は44人に1人、中学生は15人に1人の割合で、40人学級の中学校は1クラスに2人以上いる計算。学校内外でスクールカウンセラーらの専門的支援を受けていないのは計13万5724人に上った。

沖縄の不登校、最多8958人、児童は全国一の高率「無気力・不調」コロナ後で変化も

文部科学省は29日、2024年度の小中高生の暴力行為やいじめ、不登校などの状況をまとめた「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」の結果を発表した。県内の小中高校の不登校者数は前年比8.7%（718人）増の8958人で過去最多を更新した。小学校の千人あたりの不登校児童数は35.4人で、全国ワーストだった。中高も全国平均を上回った。

内訳は小学校が前年度比7.3%（239人）増の3523人、中学校が同4.8%（180人）増の3909人、高校が同24.4%（299人）増の1526人だった。沖縄の千人あたりの不登校者数は、小学校が35.4人で全国より12.4人多く、中学校は77.5人で全国より9.6人多かった。高校は35.7人で、全国より12.4人多かった。

不登校の増加:2024年度文科省沖縄 小学生全国ワースト1 共同通信・琉球新報2025年10月30日配信

不登校の小中学生、最多35万人 12年 連続増、26人に1人

文部科学省は29日、2024年度の問題行動・不登校調査の結果を公表した。国公私立の小中学校で年間30日以上欠席した不登校の児童生徒は12年連続で増え、全体の3.9%（26人に1人）に当たる35万3970人と過去最多を更新。小中高校などが認知したいじめは76万9022件、うち身体的被害や長期欠席が生じた「重大事態」は1405件で、いずれも最多だった。

文科省は、無理に通学する必要はないといった保護者らの意識変化が不登校増加の要因とみている。いじめは積極的な認知が進んだ結果とするが、重大事態の増加は「憂慮すべき事態」とした。

不登校の小学生は5.6%増の13万7704人、中学生は0.1%増の21万6266人で、増加率は前年より大幅に減った。小学生は44人に1人、中学生は15人に1人の割合で、40人学級の中学校は1クラスに2人以上いる計算。学校内外でスクールカウンセラーらの専門的支援を受けていないのは計13万5724人に上った。

沖縄の不登校、最多8958人、児童は 全国一の高率 「無気力・不調」コロ ナ後で変化も

文部科学省は29日、2024年度の小中高生の暴力行為やいじめ、不登校などの状況をまとめた「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」の結果を発表した。県内の小中高校の不登校者数は前年比8.7%（718人）増の8958人で過去最多を更新した。小学校の千人あたりの不登校児童数は35.4人で、全国ワーストだった。中高も全国平均を上回った。

内訳は小学校が前年度比7.3%（239人）増の3523人、中学校が同4.8%（180人）増の3909人、高校が同24.4%（299人）増の1526人だった。沖縄の千人あたりの不登校者数は、小学校が35.4人で全国より12.4人多く、中学校は77.5人で全国より9.6人多かった。高校は35.7人で、全国より12.4人多かった。

沖縄の中3男子、大麻成分含む液体所持の疑いで逮捕 「SNSで知り合った人物から購入」

2025/07/03 15:12

保存して後で読む [f](#) [X](#) [B!](#) [✉](#)

大麻の成分が含まれた液体を所持したとして、沖縄県警浦添署は3日、沖縄本島中部の中学3年の男子生徒（14）を麻薬取締法違反容疑で逮捕したと発表した。



沖縄の麻薬摘発、10年で最多 10~20代が大幅増 2024年県警まとめ

公開日時 2025年02月16日 05:00 更新日時 2025年02月16日 10:37

発表では、男子生徒は5月9日昼、沖縄本島中部の公園で大麻成分を含む液体約0・7グラム。学校関係者が「生徒が大麻のものを持っている」と通報し、薬物の鑑定結果などを踏まえ、指摘した。

「自分で使うためにSNSで知り購入した」と容疑を認めている

・タバコ」指定薬物工 逮捕相次ぐ 海外では



沖縄県警（資料写真）

この記事を書いた人 ► 琉球新報専刊

2024年に県警が麻薬取締法違反容疑で摘発した人数が36人に上り、過去10年で最多だったことが14日、県警のまとめで分かった。23年（11人）の約3倍。10~20代の摘発人数が大幅に増加して、摘発人数を押し上げた。薬物事犯全体でも同世代が約7割を占めており、若年層に薬物が浸透している現状が浮き彫りとなった。

15年以降の麻薬取締法違反容疑での摘発人数は、同年の20人が最多だった。

24年に同法違反容疑で摘発された10代は20人（前年比17人増）、20代は10人（前年比8人増）。コカインやMDMAの所持や使用が目立ったという。

医療・健康 #笑気麻酔 #エトミデート #ゾンヒ

と呼ばれる指定薬物エトミデートを含む無職少年（18）を医薬品医療機器法明らかにしていない。

麻薬等事犯の摘発人数と 薬物事犯全体に占める10~20代の割合



一方、24年の薬物事犯全体の摘発人数は225人（前年比32人増）。麻薬以外では、大麻が161人（同29人増）、覚せい剤が25人（同21人減）、指定薬物が3人（同1人減）だった。若年層は10代59人、20代96人の計155人（68・9%）が摘発された。

20年からの過去5年のまとめでも、摘発者に占める10~20代の割合は約6~7割で推移しており、若年層への薬物汚染が慢性化している県内の状況がうかがえる。SNSなどで薬物を手に入れやすい環境になっていることも要因の一つとみられる。

県警は「薬物の危険性を広く伝え、若年層へのまん延防止に努める。供給源の遮断に向けて取り締まりも強化する」とした。

無料学習塾や子どもの居場所づくり

- ・子どもに能力がある場合→学校に
- ・子どもに能力がない場合→勤労に
- ・居場所にどれだけの数の子どもがきたか
- ・本当に貧困の子どもがきているか

* どれも間違えている。

■子どもの能力、生活を査定する場所が社会のなかに蔓延してはいけない。

■子どもという存在を丸ごと、包括的に支える場所が必要。居場所をつくればいいという話ではない。

■学校の公共性が問われるべき。

様々な調査をしながら考えていたこと

—教師は子どもの話を聞いているか？

—大人は子どもの権利を守っているか？

大人は、圧倒的に子どもの話を聞いていないし、子どもにトラウマを与えていた。トラウマを与え、権利侵害をしていても、それを教育や保護の名のもとで隠蔽している。

①10代でママになった女性の調査→性虐待案件

○中学生になったときに友だちに相談

○中学校の先生が「お兄ちゃんが好きって噂があるけど本当？」
と話し合い、叱責。

→家で起きていた性暴力を教師は知らなかった。

→家族のなかで性暴力がおこるはずはない、という思い込み。

→沖縄では有名な教師。

■再トラウマではないか？

②知事の特命調査員の仕事→里親委託解除事案

- 生後2か月から5歳まで養育した子どもの委託解除
 - 実親がのぞむからという理由
 - 5歳という愛着形成時における別離
- * 児童福祉法第28条の申し立てなしがない
→なぜ?
→泣き叫びながら引き離される子ども。
→「泣き叫ぶ」という形で表出されている、子どもの主張を無視していないか。

■トラウマを与えていないか?

③第三者再調査委員会 →県立高校空手部キャプテン自死事案

○二回目の第三者委員会メンバー

* すべてのLINE記録を確認。

* 調査期限の撤廃とチームメンバーの意識の高さ。

* 県の担当部署の私学課の職員のプロ意識の高さ。

→この教師の起こしたセクハラ案件はあった。

→この教師の暴言で登校できない子どももいた。

→当該キャプテンの携帯電話に連絡がある（雑用の依頼）

→当該キャプテンに対して「お前だけ九州に行けたらいいのか？」

→「キモい」「あっちいけ」「顔もみたくない」

■学校の教師たちに相談できず耐え続けて自死に至る。

■大きな事件の前には別の事件がおきており、教師集団の組織の問題性。

子どもの生活に潜むトラウマ

トラウマ：自分ではどうすることもでなきない力によって、屈服させられること、支配され、その記憶がその人の人生に染みわたる。

→凍結された記憶（写真ではなく動画のまま残る記憶）

→ 災害・事故・暴力・性暴力・性的虐待・いじめ……
* 子どもの世界にもある

映画やドラマは、トラウマ論やIFS理論をベースに作品が作られるようになっている…でも教育や支援現場は？

*「インサイドヘッド」【I】【II】

*世代的連鎖（野木亜希子「フェンス」2023）



松岡茉優×宮本エリアナW主演、野木亜紀子脚本



10代でママになった女性の調査より

- ▶ 沖縄で調査
- ▶ 77名の女性に話を聞いている。
- ▶ 性暴力の多さ。
- ▶ 性虐待の告白。
- ▶ 公共性の後退。
- ▶ なぜ行政サービスがはいっていないのかというケースがあった。
- ▶ 民間支援の問題→テレビへの強制出演、性暴力。



鈴音一中卒、キャバクラ

- ▶ 母親がスナック勤務、宗教二世、小学生のときにきょうだい全員、母親の恋人から暴力を受けている。
- ▶ 小学校のときから不登校気味、中学校1年から不登校（給食時間から登校、部活の顧問でもあった教師が「しめしがつかない」と部活を辞めさせたあと登校せず）。
- ▶ 中2のときに妊娠。ひとりで愛知県に出かけて10日間のキャバクラ勤務で20万円稼ぎ、中絶手術。
- ▶ 小学生から中学生にかけて、複数の大人から性的虐待をうけている。



小学生のときに始まった性的虐待

鈴音：昔から…なんていうのかな、こういう感じ、こういう感じっていうか、だから…なんか…大人の人とかでも…体内とかでも…なんか「やろーか」っていう人が多かったんですよ……。はじめて、なんかそんなのにあったのが、いとこのお父さんで…

——そうなんだ。

鈴音：小学校4年ぐらいですかね…小学校4年ぐらい時に、あって……なんだろ…で、それで…中学校、その時に……なんか再婚してるお父さん…、元奥さんとの子ども、旦那さん…なんか……今のお父さん。その前は、今のお父さん…今のお父さんにも、あるから…中学校1年ぐらいですかね、小学校ですかね…ま、それは言ってないんですけど…

——それ言わなかつたのはなんで？

鈴音：お母さんとせっかく再婚したのに……。



普段から無理している

——四〇度出てるけど動いてたってこと？

鈴音：気づいてなかったんですよ、全然。

——いつもの生活してたってこと？

鈴音：します、全然。

——なんか普段が、無理してる？

鈴音：必死なんでしょうね。多分、……かなり。頭が割れそうすぎて、寝てるときとかに、あの、落ち着くじゃないですか、やっと横なれる、寝れる。……したら、頭がガンガン、ハンマーでたたかれてるみたいにガンガン……。

——その時にもう、ひどいことに気づくわけね。

鈴音：そう。だけど、「明日まで大丈夫、明日まで大丈夫」ってなったら、一週間過ぎてて。だから、「頭に、脳に障がい残ってないだけ、奇跡だと思いまさい」って。



助けてくれる人がいない

鈴音：仕事ばっかしてて、朝も夜もしてて。熱出てないのに、熱さまシート貼って、2歳の時に、お熱出てないのに、「お熱出たみたいだから、ママ、今日お仕事休み？」って。…………ごめんって思って。…………「出てないよ」っていうけど、「出てくる」って。体温計も、鳴らし方もわかんないから。ずっとこんなって、いろんな布団かぶって。(中略)子どもいるから稼げないとか、子どもいるから、こんななつてるとか思いたくない、思ってたらダメだろ…………って思うんですけど。……ほんとは思う。でも、「もう邪魔」って思ったこともないし、一回も。だけど、「人ができてるのに、なんでききないんだろう」はあります。

→転々と場所が変わる。

→保育園に行かせたいが、そもそも住所のある場所にいない。

【学校からの排除もあり信頼できる大人との出会いがない。自分ひとりで危機を乗り切ってきた自負があり支援介入が困難】



りのん 高校中退 サービス業数名の友人が地元にいる一出産し、ワンストップの応援のなかで戦い、原母との関係が改善

- ・18歳で出産、婚姻関係なし。
- ・長期にわたる性虐待(小学生)。
- ・母親がアルコール依存症。
- ・ワンストップが裁判を支援、施設入所、接近禁止命令、実刑判決。
- ・フラッシュバック。
* 裁判前後の2年間、新しい恋人が支え、ふたりは結婚したいと思うように。



施設からの「働きかけ」

りのん：（施設長に彼氏のことを聞かれたけれど、排卵がなくて）妊娠できないし、お姉ちゃんたちに結婚を反対されているから、つい、施設長に、「結婚をしたいんだけど、できちゃった婚が楽かもと思っている」って言つたら、「ちゃんと、夕菜（娘）のお母さんやってからにしてよね」って。そばにいた〇〇さん（彼女の担当のワーカー）も、こんなかんじで（目をさらす）、かばってくれなかつた。

——怒つていいんだよ。ひどいよ。がんばって育てているのに、そんなこといわれる筋合いないよ。

りのん：流しちゃつたんです。へへへ。「お母さん、がんばります」って。でも、私のこと、そんな風にみているんだって。何を、わかるんだ、って思つていて。本当はずつと考えていた。



- ・「良き母親」「ある定型化された育児」のモデルのもとで、彼女の育児はだめだとジャッジされたことで彼女は傷ついている。
- ・そもそも「できちゃった婚がいいと思っている」という発言は、彼女の状況のなかで問題を一気に解決できるようにみえる最短の方法であり、その発言の背後には、「妊娠できないことがわかったショック」「家族が結婚を許してくれない」という思いがある。その思いのレベルが無視されている。

評価は必要。

- 行政サービス、治療のために。でも彼女ががんばっていることの評価、思っていることを読み取れないと治癒にはならない。
- ワンストップ・司法が聴き取った。生活の場所が彼女の希望していたきちんとしたトラウマ治療へつなげる。
- 高校を中退したが、中学校は行った。仕事の継続、行政サービス、大人に対する一定の信頼感の醸成。



トラウマから回復するということはどういうことなのか？

■支援・教育の課題として

- ▶ 心のキズ、トラウマの知識の必要性。
- ▶ トラウマの中核は、自分で決めることを奪われ、どこからも助けがやってこないと思わされ、孤立無援の状態になること(J・ハーマン)。
- ▶ ならば、トラウマからの回復は、安全な場所で自分で決めることを増やし、助けはやってくると思えるようになり、孤立無援ではないとわかること。それぞれの現場で考えていく。
- ▶ 支援者が回復のルートを描くことはできない、トラウマケアとしては不適切。

*ハーマンは、支援者のスタンスは、外傷性記憶に対しては中立者である必要はないし、回復を目指す「よき伴走者」とする。その人の愛着を持ったものを掘り起こす。そこをベースに、トラウマを克服し、社会への信頼を拡張する。



翼と美羽—DVの現場に駆けつける友だち

- ▶ 同じ職場のキャバクラ店で働く中学時代の友だちどうし。
- ▶ 翼(16歳で出産、結婚)。妊娠中から激しいDVを受けてきた。
- ▶ 翼は、家でDVをされていないか？と美羽は何度も尋ねる。
- ▶ 翼はずっといえなかつたが、鼻が折れるほどの暴行を受けた後美羽がかけつける。
- ▶ 美羽は大丈夫と問わず、記念写真をとり、1か月、子どもの送迎を担当する。
→物的証拠もあるなかで離婚成立。CF『裸足で逃げる』太田出版



京香とミナミー中途中絶の際の応援

- ▶ キャバクラの客との避妊の失敗により妊娠。
- ▶ 京香は家族の稼ぎ頭、妊娠の継続はないと即座に判断。
- ▶ 手術の立ち合い、費用を貸すなどは大人が。
- ▶ 包括的な支えは友だち。

「やーの子どもがわーに、うつってきたよな」「だから面倒みれよ」



出産時に起きるフラッシュバック

クラウス/シムキン『性暴力サバイバーが出産するとき』翻訳白井千晶 株式会社ともあ



- ▼ 性虐待・性暴力を受けた女性が出産時にどのような気持ち・恐怖を抱えるか。
- ▼ 性虐待・性暴力の場面とよく似た状況になる。
- ▼ 「ラックスして」身体の力を抜いて」夫丈夫だよ」
- ▼ ↓言葉の重なり、身体拘束されることや、意見を聞かれないことがふたたび被害を受けたときの状態の再現になつていて。
- * 必要なことは、意見を聞く、身体の管理についてその人の希望を聞く。選択肢をその人と考える」とが、コントロールの感覚を強化で
- * STMのテキストに↓暴力・性暴力・性虐待の告白が増える。

10代のママのシェルターおにわで真ん中に置いたこと—

①思いを聞く ②したいことをひとつでも増やす ③実現できる方法を考える







スタッフの言葉から学んだこと

- ▶ 「おにわにきてよかったです？」の質問に、「マッサージかな？」→
Aさん「マッサージだけ？がっかり」
Bさん「ひとつはあったんだ。よかったです！」
Cさん「バウンダリーをしっかり引いたんだね。すごいね」
- ▶ 「かわいいって言わないで。馬鹿にされているみたい」→
Dさん「いまわかつてよかったです！」
上間「教えてくれてよかったです。ありがとうございます」
- ▶ 車を持ってきたいという希望に→
Eさん「おにわに車を持ってきたいっていうのは、おじいちゃんたちに、赤ちゃんを見せにいきたいのかなって」
- ▶ 解離に
Cさん「こんにちは。私は○○といいます。△さんの支援のために入っています」
- ▶ 胎児ネグレクトではないか？
スタッフから「特性が出ているだけ」「わかりづらい」
- ▶ ピアの力 「出産をひとりでさせたくない。自分がたちあってもいい」の言葉に。
Dさん「はじめて、誰かがみえてきた」



施設だからできるのか？ 学校だからこそできること

- ▶ 怒り狂って保健室に入ってきた男の子。「ママに電話して、帰る！」
- ▶ おしほりをあげると泣く。
- ▶ しばらく休むように話して、アロマを焚く。あたたかいお茶を出す。
- ▶ 「プールがあるからがんばってきたのに！」といって泣く。
- ▶ 担任に教えると、担任が「そうだったんだ！」「がっかりしたね！」
- ▶ 「可愛いなあって思いました」
→「先生、こいつにもアロマ嗅がせてあげて。落ち着くよ。」



「こころとからだ コンディションカード」を使って話す

先生が気になるといっていた女の子と、「一緒にやろう」とだけいって、「こころとからだのコンディションカード」をみせる。

- ▶ 「死にたくなることがある」
- ▶ 「自分なんてどうせと思う」
- ▶ 「時々、身体を傷つけている」
- ▶ 「食べたり吐いたりしている。あ、これはママだよ」「ママは音もなく静かにはける。プロだから」
- ▶ →話したいことがあると、カードを使って話ができるように。
- ▶ →保健室に来たほかの子に対してもやってあげるようになった。



馬介在授業（2025年琉球大学病院ウェルビーイングセンター）



あらためて、ハーマンを

ハーマン『心的外傷と回復』翻訳中井久夫 みすず書房



- ▼ 心的外傷／トラウマとはなにか。
- ▼ トラウマを受けた身体と心に何が起きるのか。
- ▼ 生き延びようとしているひとへの理解と敬意。
- ▼ そのひとの「今・生きている時間」を充実させるために大人は何を考えるか。
- ▼ すべての場所で、実践を考える。
- ▼ 公教育である学校の可能性。

